



草間彌生《大いなる巨大な南瓜》
2017年 ©YAYOI KUSAMA

コロナ禍での天神祭も終わり、夏本番となりました。戦後商店街の近代化が始まるまでは、祭り当日の商家の店先には秘蔵の屏風が飾られ、舞台の曳行とともに祭の見どころの一つとして「屏風祭」とも呼ばれていました。城下町の時代から続く商家の旦那衆の中には文化芸術に造詣の深い教養人も多く、市美術館でコレクションの常設展示のある池上喜作や、近年本郷地区で顕彰の動きのある松門文庫の主こと窪田畔夫、松本民芸館の創設者丸山太郎にして

まちなかアートプロジェクト始動



令和3年7月1日現在

世帯数 : 844世帯

人口 : 1534人

男 : 742人

女 : 792人

も、皆この地区の商人でした。彼らの作品やコレクションは地区内や市の施設で今も大切に収蔵されています。市制施行80周年を機に20年間にわたって続いた「郷土の若手芸術家〇〇人展」は、当時美術館を持たない松本市において、発表機会の少ない若手芸術家の作品を中心商店街の店先やアーケード下の特設ショーケースを利用して展示するという画期的な試みでした。そのような文化的な背景のもとで、7月から「松本まちなかアートプロジェクト2021」が始まりました。松本パルコの6階と屋上に開設された「パルコde美術館」では、大規模改修により休館中の市美術館で収蔵している草間彌生や飯沼英樹などの作品や長野県に縁のある注目の現代アーティストの作品を、来年2月までの4期に分けて公開中です。現在、市立博物館も



飯沼英樹《Rottenbuch》2016年

建て替え中、国宝旧開智学校も耐震補強中で、街なか観光の目玉施設がそろって休館中ですので、その代替として期待されています。今後まちなかの商店が所有するアート作品の店頭での展示や、クラフト作家の作品販売なども予定されていますので、中心市街地の回遊性の向上やまちなかの魅力の再発見、地元の作家・芸術家との交流など夢が広がります。この機会に感染症対策をしたうえで街歩きを楽しむのも、今年ならではの過ごし方になりそうです。

【プレゼント】 8月1日から13日までに第一地区公民館へお申込みいただいた方10名にパルコde美術館の招待券を差し上げます。応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

Presented by
視聴覚委員会



まちなかフォト ～中町編～



ようこそ第一地区福祉ひろばへ

Mウイング4階にある第一地区福祉ひろばでは、町会役員や関係団体の皆さんによる企画委員会が中心となって、いろいろな講座を開いています。お気軽にご参加ください!

かんたんストレッチ 第4火曜日

10:00~13:30~ どちらか1回の参加

健康運動指導士、荒井真理さんの指導で、体ほぐしと家庭でも出来る簡単な体操を行っています。体操を行うと、心地よい汗をかき、体が軽くなります。ぜひ、ご参加ください。



ウォーキング 不定期 ~地区近隣を歩いています~

昨年末と今年4月には、ボランティアガイドの方に教えていただきながら湧水巡りをしました。普段気づかなかった井戸を発見したりと、楽しみながら歩いています。毎回、色々な趣向を凝らしています。地区の皆さんとウォーキングはいかがですか?

相澤東病院健康教室 月1回

相澤東病院の方に講師をお願いし、体幹エクササイズや音楽療法等

相澤東病院のご協力をいただき、毎月違った内容で健康教室を開催しています。外出の機会が減った今だからこそ、体を気持ちよく動かしてリフレッシュすることの大切さを感じています。ご一緒に体を動かしましょう。



サークル

第一地区では12のサークルが、月1~4回活動をしています。見学はお気軽にどうぞ。

◆お問い合わせ

電話 39-1173

時間 平日9:00~16:30

◆活動中のサークル

囲碁の会、カラオケ同好会、きさらぎ会(大正琴)、つくし会(書道)、粘土、健康マージャン、葉月の会(踊り)、楽がき絵画(水彩画)、吟詠会(詩吟)、趣味の会(手芸)、紫陽花の会(手芸)、いきいき百歳体操



毎月の講座内容やサークルの活動日は、「第一地区地域だより」をご覧ください



わたしは「女王」という字を音読みすれば「じよ」か「にょ」。だから「女王」を「じよおう」と読むのは、言われてみれば至極当然である。いやほんとに目から鱗だった。

この出来事から、自分が当たり前だと思っていることが果たして、本当に正しいのか、疑ってみることが大事だとつくづく感じている。

私のシヨックの原因はこの「女王」の読み方だ。

確かに「女」という字を音読みすれば「じよ」か「にょ」。だから「女王」を「じよおう」と読むのは、言われてみれば至極当然である。いやほんとに目から鱗だった。

この出来事から、自分が当たり前だと思っていることが果たして、本当に正しいのか、疑ってみることが大事だとつくづく感じている。

つい最近、60年近く生きてきて「こんな間違いを知らずにいたのか」とシヨックを受けたことがあった。それは漢字の読み方。自慢ではないが、高校生の時には、全国模試で一位を取ったことがあるくらい国語が得意だったので、正に青天の霹靂というくらい驚いた。

電車通り